

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所とホームの理念がある。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全職員が理解し実践できているとはいえない。	○	申し送り時に読み合わせは行っている。今後、会議の時など定期的に意味を説明し理解してもらい実践していきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居契約時、運営推進会議の時などに説明は行っている。	○	話はしているが説明不足な部分もある、広報誌に定期的に記載するなど検討し理解を深めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	挨拶をすることにより交流も広がり町内会の方や近所の小学生等が立ち寄れるような関係づくりを行っている。又、子供110番も行っている。	○	もっと学校関係者、学生との交流を行いたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会地域福祉推進委員の方と連携を取り交流会、合同行事等を行っている。又、町内会の方の誘いで地区で行われている行事ごとにも参加している。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議、地域の方との交流会を行う際、相談に応じたりはしている。具体的には取り組めていない。	○	会議の時などに定期的な話し合いを行ってきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が評価を理解しているとは言えない。具体的には取り組めていない。	○	今後、評価が出て際、改善に取り組んでいきたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会、地域包括、民生委員、家族からの意見を活かし管理者、職員共に介護に取り組んでいる。	○	具体的な取り組みが出来ていないため今後、検討する必要がある。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町内会との交流会を通話し合い等を行いサービスに活かしている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者、職員も理解不足のためホーム内での学習会が必要であり支援できていない。	○	内部研修等を開催し理解を深めたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	入社時に管理者より職員に説明はしている。言葉使い、態度にも注意をしている。又、家族やお客様の意見を聞き支援に活かしている。	○	定期的な勉強会を開催しもっと理解を深めたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	書類を用いて説明をし同意を得ている。その都度、説明を行い理解し納得できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者、職員は利用者と一対一になれる場面を作り話しやすいように努めている。又、改善すべき点があれば会議等で話し合いを重ね取り組んでいる。	○	利用者が表現できる環境作りを行っていききたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、個々の広報誌を作成し家族に情報提供をしている。その都度、連絡を取り報告をしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情箱を設置している。又、管理者と家族で定期的に連絡を取り合い、問題として出たことに関しては会議等で話し合っている。	○	具体的には取り組めていないので今後、家族との都合が合えば家族会を開催し関係者との話し合いをもち反映させていききたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回の会議の際に機会は作っている。充分に出来ているとは言えない。	○	会議以外でも意見を言い合える機会を作れるよう検討していく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	希望に応じられるような勤務体勢にしている。又、状況に応じて勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が移動する際は利用者に伝えてはいるが混乱を招いた場合には管理者、職員で対応し配慮している。充分に出来ているとは言えない。	○	具体的な取り組み方法を検討する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>外部研修は、その都度掲示しているが参加できていない。内部研修は研修企画、内容の作成中。</p>	○	職員がステップアップ出来るように検討する必要がある。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>他同業者との交流は不十分だが、同じ事業所の管理者同士の交流は取れている。</p>	○	質の向上に向けての取り組みは出来ていないため、今後は会議等で検討する必要がある。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員同士で話し合い休憩を取ってもらい、利用者と離れられる環境作りはしているが、ストレスの軽減になっているかは解らない。</p>	○	職員同士、個々の事を把握して欲しい。休憩に入る際に職員がもっとくつろげる環境作りが必要。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>管理者、職員は声を掛け合い協力し合って個々の業務に取り組んでいるが全職員が出来ているとは言えない。</p>	○	もっと運営者と管理者、職員とのコミュニケーションが必要だと感じる。意見が言い合えるよう検討する必要がある。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>日々、観察を行い本人と接し、会話などしやすい環境作りをしている。又、管理者と職員は利用者との信頼関係があり不満等を自由に話せる雰囲気作りをしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>内覧、契約時に家族の相談や悩みを聞く機会を作っている。解決すべき点については職員、家族と話し合いサービスに活かしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者、職員で話し合い家族の求めるサービスができるよう支援している。現在、他サービスの利用希望は出ていない。	○	今後、他サービスの利用希望が出た際、検討し利用していきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に管理者、リーダーで訪問を行い本人とコミュニケーションを取ったりはしているが十分に出来ているとは言えない。	○	今後、検討する必要がある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	全員が出来ているとは言えないが利用者が個々に得意としている事を把握し、それを活かしながら支援をしている。	○	今後も全職員が利用者一人ひとりと支えあい支援していけるように努めたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者のことで解らない時などは家族から話しを聞くことにより共に相談し合える関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	定期的に連絡を取り利用者の状況等の報告をしている。又、体調や調子の良い時は家族の方に外出や外泊のお願いをしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通う慣れた美容室等の継続や親類、友人との面会も自由に行えるよう配慮している。支援に努めてはいるが全てを把握しきれていない。		利用者の事を確実に把握し支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々、心がけ支援している。 孤立しがちな利用者には職員が仲に入って場を取り持つようにしている。 又、アクティビティー等で孤立しないよう交流を図っている。	○	全職員が心がけ支え合えるゆに取組んでいきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者、家族とも相談し合える関係づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全体的にサービスの中で利用者が求めていることを考え把握できるよう努めている。 困難な場合は会議で話し合い支援をしているが場合によってはできていない。	○	検討できるような場を増やし取組んでいきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	全て記録に残し把握できるよう努めている。 把握できていない職員もいる。	○	職員同士、声を掛け合い把握していく。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	記録に残し全職員が把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	居室担当者を中心に本人、家族の求めている事を把握し職員が必要だと思う支援を会議で検討しケアマネージャーに意見を求め作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族と話し、関係者と会議を開きケアマネージャーを含め介護計画の見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に詳しく記載し共有している。 又、経過記録には実施の有無を記載している。	○	今後、個別記録に実施の結果を詳しく残していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況や希望に応じた支援は行っているが多機能性を活かした支援が出来ていないかはわからない。	○	今後、話し合いをもち素早い対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	子供110番を行っている。 又、民生委員や自治体の協力で交流会への参加等も行われている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は他のサービスへの希望が無い為、行っていない。 病院への通院同行は支援している。	○	今後、希望があれば他事業者とも連携を取り検討していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	共同し合っているかどうかは解らないが、地域包括支援センターとの協力体制は取れていると思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、家族の希望に応じ適切な医療機関への受診支援を行っている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関に認知症専門医がいるため連携体制は取れている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関の訪問看護しとの連携体制は取れている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>医療機関、家族と速やかに連絡を取り合い早期退院に向けての情報交換に努めている。又、退院後の注意事項等の話し合いも出来ている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>医療機関、家族との話し合いを重ね職員に速やかな情報提供を行い共有している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療機関、家族と話し合いホームで行えること等を検討している。又、かかりつけ医に急変時等の際は緊急受け入れの要請が出来るように備えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	話し合いを重ね情報提供に努められている。ダメージの軽減には努めているがもっと防止できるのではないかと思う。	○	利用者のダメージを防ぐことについては関係者間でもっと検討する必要がある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者一人ひとりに合った声掛けと対応を行っている。常に言葉使い、プライバシーに関わることには充分気を配り対応している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者自身が個々を出せるように職員はその人に合った場面作りや支援を行っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全て出来ているとは言えないが体調等を考えた上で希望に添った支援は行っている。	○	利用者の希望に添って満足できるような支援が出来るように検討していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望に応じたお店に行けるよう支援を行っている。又、出張理美容も取り入れている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	声掛けをし無理なく行ってもらっている。準備は職員が行っている。一人ひとりの希望に応じられるよう努めている。	○	利用者と一緒に食事を行い後片付け等も出来ている。今後は調理、準備など一緒に行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の病気も配慮し医師に確認を取った上で可能な限り望み通りにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	定時のトイレ誘導、排泄状況の把握をし支援を行っている。 又、状況に応じリハビリパンツよりパンツに変更する事により自ら意識し失敗の軽減に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を嫌う利用者には清潔保持の為、定期的な入浴を進めている。 他の利用者に関しては曜日設定はしているが状況、希望に応じて行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々に合った対応を行い支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	全利用者に出てくるとは言えないが一人ひとりを理解し支援を行っている。	○	職員が利用者一人ひとりを把握、理解し日々の暮らしの中で支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	全ての利用者に行えているとはいえない。 金銭管理が少しでも行える方に関しては付き添いのもと行っている。	○	本人の希望で支援していけるよう家族とも話し合い検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、気温次第で散歩等は行っている。 状況により支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に数回だが利用者の希望を聞き外出レクとして企画を立てて支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望によって電話、代筆、手紙を出すなどの支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問できるような雰囲気づくりをしている。面会については時間等の設定は無く事前の連絡があればホームへの宿泊も可能になっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の身体状況に合った介護方法を話し合い実践しているため取り組んでいると思う。家族の希望によりコールを使用している者はいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	管理者、全職員は弊害を理解し取り組んでいる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	朝、夕の申し送りで見守りや様子観察、利用者一人ひとりの行動パターンの把握で所在の確認が出来ている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物品に関しては利用者、又は家族の承諾のもと事務所で預かり使用する際に渡している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員は色々な危険性を理解し防止するため解決法を話し合ったり訓練等を行っている。	○	もっと知識を学べるように内部、外部研修で取り組んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的には行っていないが全職員は最低限の対応法を理解している。又、緊急時対応マニュアルを作成している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	委員会を設け定期的な避難訓練を行っている。又、町内会の消防団を結成し協力してもらえよう依頼をしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その都度、家族と職員で話し合い支援方法を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝、夕のバイタルチェック、個人記録への記入と申し送りで情報の共有をしている。又、必要に応じて医療機関への相談を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬等の変更があった場合は申し送りで報告、受診往診記録への記載をすることで全職員が把握している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々の排便状況の把握をし一人ひとりに合った支援方法で取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、声掛け又は介助にて口腔ケアを行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリー計算を行い1日の摂取量、水分量を記録に残し把握できるよう支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会での都度、話し合いをもち該当する時期によって実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所周り調理器具は夜勤帯で漂白をしている。 食材は職員が買い物に行き新鮮な物を見極め購入。 その際、冷蔵庫内の清掃を行い清潔に保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物周囲を月2回、全職員で清掃し清潔に保っている。 又、家庭菜園を行ったり花壇の整理等を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じてホーム内の飾り等を変えている。 利用者にとって生活しやすい環境になるよう環境整備委員会で話し合い実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者が個々に過ごせるような空間づくりには努めている。	○	自室以外にも個々がゆっくり過ごせる場所作りが必要なため今後、検討していく必要がある。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の使い慣れた物を家族、本人と話し合い居室に配置している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気、湿度を把握した上でその時に応じ換気等を行うよう配慮している。又、利用者の希望に応じその都度、対応することもある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況により身体面を配慮しながらテーブル等の配置変更を行っている。又、段差は無く、手すり、浴槽、便座、洗面台も使いやすいよう工夫されている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の残存機能を活かし必要最低限の支援になるよう話し合い取り組んでいる。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇作り、家庭菜園等を一緒に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

レクリエーションの時間が多く設けられバリエーションがあると思う。
心から共に信頼し笑って毎日を過ごせる。利用者職員ではなく利用者にとって家族、知人に手を貸してもらっていると言う馴染みの関係で支援をしていきたい。